

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0593900137		
法人名	株式会社ユウメディカル		
事業所名	グループホームいこいの家		
所在地	秋田県仙北郡美郷町六郷字遠槻383-2		
自己評価作成日	令和5年12月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和6年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は令和3年2月に1号棟、令和5年2月に2号棟を開設しております。周辺は田んぼに囲まれ、奥羽山脈や鳥海山を見渡せ自然を肌で感じられる環境です。コロナ禍で外出支援に制限がある状況ですが、天気の良い日は日光浴を兼ねて屋外でお茶会をしたり、施設前に作った畑に季節ごとの野菜を植えて一緒に成長を楽しむなど様々な取り組みをしております。機能訓練にも力を入れ、毎日の日課としてリハビリ体操を行い、ゲームやレクリエーション、趣味活動や脳トレなどで楽しみながら機能が維持できるように努めております。職員は社内・社外研修に積極的に参加し介護・認知症についての理解を深め、より質の高いサービスの提供が出来るよう日々勉強しております。認知症介護実践者研修や認知症介護リーダー研修などの専門研修の受講者も多く、より専門的な支援ができるよう体制を整えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に住宅がなく、地域交流の難しさを抱えていますが、同法人で展開している複数のサービス事業所が敷地内にあり、そこでの認知症カフェの開催や家族が畑作業を手伝ってくれること等により、今後の利用者地域との関わり方を模索しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を事務所の目につきやすい所へ掲示し、全員が理念に沿ったケアが出来るよう取り組んでいる。新人研修・社内研修でも取り上げ理解を深められるよう取り組んでいる。	3項目から成る法人共通の理念が掲示されており、地域、家族との関りを念頭に、日々のケアで実践できるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、外出する事がほとんどできない状況であるが、今年9月に法人の居宅介護支援事業所が主催した交流カフェに多数の地域住民の方々に参加され、当事業所の入居者様も参加し交流することができた。またお客様のご家族と一緒に入居しているお客様と畑仕事を行うなど交流を深めている。	職場体験に中学生が訪れ、訪問理美容も町内の方をお願いしています。住宅が周辺にないことが課題ではあるものの、畑作業に来てくれる家族や認知症カフェを通じた交流の取り組みが期待できます。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	行政の取り組みである「認知症なんでも相談所」に登録し、相談対応の体制を整えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での開催となっているが、2ヶ月毎に事業所の取組みやサービス提供内容、日常生活の様子などを報告し意見を頂いている。頂いた意見は事業所内で共有しサービス向上につなげている。	書面開催が続いていますが、行政職員からは毎回コメントをいただき、運営に反映できるよう取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度の運営推進会議に介護保険事務所の職員に出席いただき事業所運営について共有し助言を頂いている。また集団指導への参加や介護保険事務所へ介護保険制度等についても指導を頂くなど協力関係を築いている。	電話や窓口に出向く等して良好な関係を築いており、相談事項には実情を伝えながら助言をいただいています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化のための指針を定め、職員にも周知している。またマニュアルや指針に基づいて新人研修、社内研修を実施し全職員が定期的に理解を深める取り組みをしている。日中は玄関にアラームを設置するなどして見守りを徹底し、夜間のみ玄関施錠を行っている。	日常の支援の中で発生する事案について等、職員間で話し合っ対応することも多く、身体拘束、虐待に繋がらないよう取り組んでいます。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する社内研修を行い勉強している。 現在、社会福祉協議会の日常生活自立支援事業を活用しているお客様が1名いる。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、契約書・重要事項説明書の内容に沿って分かりやすく説明し、不明点についても説明を行い同意を頂いている。料金改定等、契約内容に変更がある際も、十分に説明し同意を頂いている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	契約時に苦情相談受付窓口について説明し、当事業所内や第三者機関の連絡先についても説明を行っている。また10月にお客様満足度アンケートを行い家族等の意見を頂いている。お客様との日頃の会話の中で、またご家族との電話連絡や面会の際に意見・要望を伺い運営に反映させるよう努めている。	アンケートで出された意見に対しては検討し、改善に繋がっています。アンケート実施後の結果及び意見に対する対応を家族に報告することも、サービス向上に繋がる手段と捉えて取り組まれることを期待します。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	職員会議やミーティング等で職員から意見や提案をもらい、反映する取り組みをしている。また管理者は法人の運営会議にて報告し、法人内での情報共有も行っている。年2回全職員は法人幹部との面談の機会を設けられている。	毎月の会議で職員から具体的な意見を出してもらっています。管理者を通じて運営会議で法人に伝えられ、反映できるよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組み等について近隣GHへその都度相談・意見交換を行っている。また研修等参加の際など、他事業所の方と交流を図り意見交換や情報収集を積極的に行っている。他事業所との定期的な勉強会等は行っていない。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネージャーからの情報提供をもとに、ご本人・ご家族から直接要望や心配な点などを伺い、できるだけ安心して生活を開始していただけるよう環境整備やケアの提供に努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に、ご家族より要望や心配事をお聞きし、ご本人にとって必要な支援と一緒に検討している。当事業所での取り組みについても詳しく説明し不安なく利用して頂けるよう努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれのお客様に合わせて一緒に家事や趣味活動を行い、役割をもてる生活支援を心掛けている。また経験や得意な事を活かせる取り組みを考え、教えてもらう姿勢で関わるようにしている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後もご本人への対応などについて必要に応じてご家族へ相談し、これまでの生活状況を踏まえ支援するようになっている。毎月記録や写真で利用状況をお伝えし、随時電話連絡等により情報共有を図っている。この秋はご家族にきて頂いて一緒に畑作業を行うなど交流している。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	ご家族への電話など希望に応じて随時対応している。またお墓参りなどの外出についてもご本人やご家族の希望をできるだけお聞きし対応している。	コロナ禍で制限がある中でも可能な限り本人、家族の希望に応え、これまで行ってきたことが継続できるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や性格・認知症の症状等を考慮して座席を配慮したり、職員がお客様の輪の中に入って会話の橋渡しをするなどの調整を図っている。日中はできるだけホールで過ごして頂きお客様同士の交流が図れるよう支援している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や状態の低下により、GHの利用継続が難しくなった場合でも、居宅介護支援への引き継ぎ・連携等の支援を行っている。退去後も必要に応じて相談・支援を受ける体制となっている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で会話や表情から思いや要望を汲み取るように努め、必要時はご家族からの協力も頂きながら支援している。	日常の会話等、普段の生活の中で思いを汲み取るようにしており、申し送り等で情報を共有しています。遠慮があると思える利用者には、話ができる環境をつくっています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネージャーやご本人・ご家族よりこれまでの生活歴等を伺っている。またご本人と生活し関係性を築いていく中で、趣味嗜好、得意な事、興味のある事などの理解をさらに深めていけるよう努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	月1回の会議にて職員全員でケア方法について意見等を出し合っている。またケアプラン更新時や状態やニーズに変化がある際は事業所内でカンファレンスを行い、ご家族にも現状の報告・相談をしながらケアプランを作成している。	介護計画に沿って日々の記録が行われています。担当職員が中心となってカンファレンスで話し合い、現状に即した介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や支援内容について個別のケア記録や申し送り簿等で情報共有を図っている。またその内容をもとにカンファレンスを行い介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の理容所さんや美容師さんより定期的に出張床屋をしていただいている。コロナ禍で買い物等の外出ができていないのが現状。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族のご希望にて内科医が訪問診療を行っており、必要時は緊急時医療機関への紹介が行われている。また必要時は協力歯科医療機関より訪問診療・治療が行われている。掛かりつけの薬局があり、随時指導・助言を頂いている。	訪問診療が行われていることから、入居時に協力医に変更した方もおります。家族に通院介助をお願いしている場合には、状況を記録したものを持参していただいています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護員の情報や気づき等も踏まえながら看護師と連携し、必要時は掛かりつけ医への報告や受診時の情報提供等などの協力を行っている。看護師への24時間連絡体制を確保している。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はGHでの生活や心身状態、状態変化時の状況等について情報提供し、退院の目途に合わせ病院看護師より情報提供を頂いている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合について、指針に沿って説明し同意を頂いている。現時点では終末期ケアは行っていないが、事業所として出来る事を十分に説明し可能な限りご本人に寄り添ったケアが出来るよう取り組んでいる。	重度化した場合には関係者と連携を図って次の支援に繋げることにしており、家族が安心できるよう取り組んでいます。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、急変時や事故発生時の対応についての社内研修を行っている。また同敷地内の短期入所・通所介護等とのやり取りが随時行われ、情報共有や実践的な学びの機会が得られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定での避難訓練を年2回行っている。自動火災報知機での通報・緊急連絡網の活用方法・避難誘導・消火器の使用方法等について訓練し、消防より指導頂いている。同敷地の短期入所からの応援体制を整えている。	避難の際の携行備品を各居室入り口に取り付け、退室確認用に使える工夫をしています。ユニット間の渡り廊下の掃き出し窓が有事の際に有効活用できる造りになっています。	ホームの立地環境を踏まえ、特に夜間の火災の場合の協力者の確保を含め、運営推進会議を活用しながら法人全体で具体的な対策に取り組むと共に、安心、安全に避難できるよう非常口の整備を期待します。
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語・丁寧語での会話を基本としながらも個々に合わせた温かい声掛けや対応を心掛けている。人格を尊重して傾聴し、こまめに感謝の言葉を伝えるようにしている。	言葉遣いには気をつけています。馴れ合いにならず、方言を使用しても節度ある対応ができるように心がけています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪その他、白髪染めのご希望に沿って、出張床屋に依頼し行っている。パーマの希望もあり出張美容師さんへ依頼し対応している。また入浴後の着替え衣類はご本人と一緒に選んで着ていただいている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と一緒に山菜の下処理や野菜を洗ったり、料理の味見をしていただいたりと食事に関する活動を通して楽しみが得られるような支援を心掛けている。出来る方は箸を並べたり下膳したりを一緒に行っている。	畑で収穫した野菜や差し入れの野菜を献立にあげ、誕生日、行事食では提供の仕方を変えていつもと違う雰囲気を楽しむことができるよう工夫しています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの状態やその時の体調に合わせて食事の形態を粥や刻みなどを工夫し提供している。食事摂取量について記録し、体重は毎月測定し状態把握に努めている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行って頂き、ご自身で十分に出来ない方は職員が出来ない部分をお手伝いし、口腔状態を観察している。夜間は義歯洗浄剤を使用する方もいる。義歯の状態等に不具合があるときには訪問歯科を依頼し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は失禁せずに出るだけトイレで排泄できるよう、排泄チェック表を活用しながらその方のパターンに合わせてトイレへ案内するなどの支援を行っている。出来るだけ自立支援の視点で関わり、能力を引き出すように心掛けている。	チェック表により、個々のパターンに合わせてトイレでの排泄を支援しています。改善はなかなか難しいものの排泄用品の使い方に配慮し、状態が維持できるよう努力しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳を提供したり、水分摂取を促している。また毎日のリハビリ体操や入浴時に腹部のマッサージをして排便を促している。自力での排便が難しい方は肛門周囲マッサージを行うなど個別対応をしている。必要時には医師に相談し整腸剤や下剤等での調整を図っている。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には週2回、日中の入浴となっている。体調不良や、拒否がある場合は柔軟に対応するようにしている。また浴槽の温度についても可能な範囲で希望に沿って行っている。	柔軟に対応しながら週2回の入浴を確保しています。浴槽には補助板が設置され、全員湯船に入ってゆっくり入浴できています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動的に過ごし夜間に十分な睡眠がとれるよう支援しているが、その方の生活リズムに合わせて日中も休息していただけるよう支援している。季節に合わせて寝具を調整し安眠できるよう支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様の薬の種類や目的・副作用については職員がいつでも確認できるようファイルに綴じている。また内服の変更時は申し送り簿等で全員へ周知し、看護師を中心に状態の変化等の観察を徹底している。症状について掛かりつけ医へ報告相談しながら内服の指示をいただき、掛かりつけ薬局からの助言を頂いている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのお客様の生活歴や能力、得意分野を活かし、制作レクリエーションや園芸活動などを通して楽しみある生活ができるよう支援している。畑の作業を一緒に行うなどこれまでやってきたことが活かせる取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、やや制限はあるが自宅でご家族と過ごし食事をしてくるなどの希望に対応している。天気の良い日は外でお茶を飲んだり気分転換をしていただくなど支援している。	家族との外出を可能な限り支援しています。利用者のできる力を活かすためにも、一緒に畑作業を行うことで意欲を引き出す工夫をしながら外出支援にも繋げています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理はご家族対応とさせて頂いており、希望があれば事業所で立て替えて購入している。現在利用中のお客様から特に要望等は出ていないが今後の支援として、希望があれば検討していきたい。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度湿度の調整の他、換気や消毒などを行い、安全・快適に過ごせるよう配慮している。また四季に合わせた装飾を行って季節を感じていただき居心地良く過ごせるよう取り組んでいる。脱衣室やトイレ等も温度管理している。	広い廊下を生活空間として環境を整え、随所にソファを置いて寛ぎのスペースをつくっています。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と和室にそれぞれテレビを設置、和室には冬期こたつを置いている。ホール内数カ所にはソファを設置して、それぞれの時間をゆったりと過ごせるよう配慮している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやベッドは予め設置しているが、馴染みの物の持ち込みも可能としている。テレビ・ラジオを持ち込まれている方もいる。ご家族の写真を飾ったり居心地良く過ごせるよう配慮している。	馴染みの物や家族の写真を置き、思い出が途切れないよう配慮した居室づくりがされています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手すりを設置したり、福祉用具を導入することで安全かつ自立した動作ができるよう支援している。トイレや居室に分かりやすい目印をつけるなど工夫をしている。		